

# 平成27年度 子どもゆめ基金 体験の風リレーションシップ事業 おおすみくん家 キッズたんけんたい

- 1 趣 旨 小学校低学年の子供たちが、親元を離れて共同生活や自然体験活動を行い、仲間と関わったり、遊んだり、協力したりする体験をとおり、自分に自信を持てるようにするとともに、体験活動の好きな子供を育てる。
- 2 期 日 平成27年11月7日(土)～8日(日) 1泊2日
- 3 対象者 小学校1・2・3年生
- 4 募集定員 40人 (申込者：128人)
- 5 参加者 38人
- 6 指導者 国立大隅青少年自然の家職員



## 7 日程と主な活動

1日目 11月7日(土)		2日目 11月8日(日)	
10:00	・受 付	6:00	・起 床
10:30	・出会いのつどい ・オリエンテーション	7:30	・荷物の整理 ・朝食(レストラン)
10:45	<チャレンジ1> 「ふれあいタイム」	9:00	<チャレンジ5> 「科学で遊ぼう」
12:00	・昼 食(レストラン)		・スライム作り体験
13:30	<チャレンジ2> 「秋さがしにいこう」		・ジャンボシャボン玉
15:00	<チャレンジ3> 「遊びリンピックにチャレンジ」		・空気砲
18:00	・夕 食(レストラン)		・プラホビー
19:00	<チャレンジ4> 「どんぐりクラフト」	12:00	・昼 食
20:00	・入浴, 就寝準備	13:00	・ふりかえりタイム
21:00	・就 寝	13:30	・別れのつどい
		14:00	・解 散

## 8 事業運営について

前回(キッズたんけんたい)同様、基本的な生活習慣、季節に応じた自然体験活動、科学的な要素を含んだ体験活動を位置づけプログラムを計画した。

- (1) 早寝早起き朝ごはんの実施や食事および寝具の準備、後片付け等の活動を通して、基本的な生活習慣への意識を高めさせるようにした。
- (2) 山を散策しながらどんぐりや木の実を拾い、それを使ってクラフト活動を行うことで、自然とふれあう良さを体感できるようにした。
- (3) 科学的な遊びを通して、科学のおもしろさや不思議さを体感し、体験することの楽しさを味わえるようにした。



## 9 事業実際

### (1) ふれあいタイム

ふれあいタイムでは、スタッフが班の中に入り、簡単なゲームを通して、交流を図った。この活動を通して、子供たちはすぐに仲良くなり、緊張や不安感を和らげることができた。

### (2) 秋さがしに行こう

前回同様、所内周辺を歩きながら、クラフトの材料（どんぐりや木の実、小枝など）を拾った。どんぐりの多さに驚きながら、袋いっぱい拾う姿が見られた。拾ったどんぐりで何を作るか創造を膨らませながら、秋さがしを楽しむことができた。

### (3) 遊びリンピックにチャレンジ

遊びリンピックでは、サイコロ1出し、空き缶積み、カード「集めじゃんけん」の3種類のゲームを実施した。低学年でも簡単にできる内容で、参加した子供たちは真剣に取り組んでいた。中でもカード集めじゃんけんは、班以外の参加者とじゃんけんゲームを通して交流を深めることができ、友達作りのきっかけとなった。

### (4) どんぐりクラフト

集めた材料を使って、思い思いのクラフト作りにチャレンジした。どんぐりや木の枝、松ぼっくりなどをうまく組み合わせ、個性豊かな作品ができあがった。完成後は、全作品を机上に展示し、みんなで鑑賞した。鑑賞することで友達の作品の良さや自分の作品の良さに気付くことができた。

### (5) 科学で遊ぼう

科学的な要素を含んだ活動をとおして、その不思議さや楽しさを味わってもらう目的で実施した。内容はスライム作り、空気砲、ジャンボシャボン玉、プラホビー作りの4種類で、全てのコーナーを各班で回りながら体験した。

普段なかなか体験できない内容も多く、子供たちの関心は高かった。楽しい遊びを取り入れながら、科学の不思議さに興味を示し、充実したひと時を過ごすことができた。

## 10 成果

子供たちが取り組む活動に、常にスタッフが付き、支援することで、充実した活動や生活体験ができた。

親元を離れ、食事や寝具の準備、後片付けを自分で行うことで、子供たちの自立心を養うことができた。

自然体験活動や科学体験活動を取り入れたことで、その良さや不思議さなど興味・関心を高めることができた。

共同生活を通して、「早寝早起き朝ごはん」運動を意識させることができた。

参加した児童からは、「一人でお風呂に入ることができたし、一人で寝ることができた」「シーツをたたんだり、毛布をたたんだりするのをがんばった」などといった感想が寄せられた。

